

令和3年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的な学びを育む教育課程を編成し、定時制かでの特徴を活かし、少人数ひとりに対するきめ細かな指導を実践する。 ・グローバル社会で対応できるように、ICT等を活用し、基礎学力の定着を図り、興味・関心のあつて深く探究できる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な生徒のニーズに対応し、基礎学力の定着を図るとともに、発展的な学習支援を実践する。 ○ICT等を活用し組織的な授業改善を推進する。主体的・対話的な学びの力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟度に対応した授業実践のため、学び直しや進学に対応した授業を行う。また、補習や講習、模擬試験を通して学力の確認等を行う。 ・ICT等を活用し授業改善を推進し、職員間で資料や情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価の数値を確認し、生徒の実態やニーズに対応できたか。また、学力向上のため、補習・講習や模擬試験に参加する生徒数が増加したか。 ・研究授業において生徒の学力向上のための場面設定等、取組みが実施できたか。
2	(幼児・児童) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・共生教育の実現を目指し、高い人権意識を醸成する。 ・組織的な支援体制を構築し、外部機関との連携を図り、心身ともに健全な学校生活を送れるよう支援する。 ・家庭と連携を図り、基本的な生活習慣の確立を図るとともに成人年齢の引き下げに伴い、高校時代に成人としての自覚・責任が持てるよう自立を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が互いに多様性を認め、共生社会に向けた思いやり教育を実践する。 ○中学校からの支援の引き継ぎを確実にし、また生徒の特性を理解し、対応策を練るための外部連携を継続的に行うことで、生徒への的確な支援を行える環境を作る。 ○社会人として求められる基本的な生活習慣の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・違いを個性と認める共生社会の在り方を、職員が研鑽し実践する。 ・地域の特別支援学校との連携を定期的に行い、生徒に対する支援策を全体で共有する。 ・三者面談や、適時家庭連絡を実施し、家庭と協力しながら生徒に社会人として求められる基本的な生活習慣を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向けの研修会を開催し、職員の資質向上が図れたか。 ・支援が必要な生徒に対して、外部連携や校内連携を通して効果的な支援計画を計画、実践できたか。 ・生活習慣を整える意識が高まったか。また、年間で、遅刻、欠席の回数が規定数を超えた生徒数が令和2年度を下回ったか。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のニーズの変化に伴い、一人ひとりの進路実現に対応できるよう幅広いキャリア教育を実践する。定時制改革において進路実現が大きなテーマである。 自分の将来に対して、自ら向き合い、主体的に準備できるような様々な経験を積む機会を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的な自立に向けて必要となる能力を理解し、その能力や態度を育成する。 ○学校行事や部活動等の課外活動を通して、社会性、協調性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク等の外部機関と連携し、1年次から説明会や講習会などの機会を設け、生徒一人ひとりの進路実現に向け、個別に支援する。 各活動の目的を明確に提示し、生徒が主体的に企画、運営、活動に携われるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク等と連携し、情報提供をおこなう、進路相談期間を通して個別に支援ができたか。また、総合的な探究の時間等で、生徒自らが進路について考え、積極的に行動できたか。 学校行事や部活動等へ積極的に参加し、主体的な活動の場が見られたか。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な自立を促すために「地域の教育力」を活用し、交流・活動する場面を増やす。 定時制の活動を知ってもらうためにHPでの広報活動や学校説明会の実施など積極的に外部への発信を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域活動への積極的な参加、地域住民との連携を促し、地域の一翼を担う場面を増やす。 ○魅力的な学校作りを目指しつつ、それらの活動を外部へPRできる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議委員やPTA等の意見を参考にしながら、活動可能な地域活動への参加を促す。また、生徒が主体的に活動する場面を増やし、達成感を感じられるよう支援する。 学校活動や行事の様子を外部に発信するために、HPを随時更新し、広報活動に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に活動するとともに地域の方々と協力し、地域社会の一部として、自らの活動が地域に貢献できたか。 活動や行事毎にHPを更新し、学校説明会等において、本校の特色をPRすることができたか。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の教育公務員としての意識向上を図り、事故・不祥事の防止を徹底する。組織的なチェック体制の確立を図る。 近隣自治体と連携・協働を図り、生徒が主体的に防災教育に取り組むと共に、防災に対する知識を高め、意識の醸成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事故・不祥事を減らすために、啓発的な活動の機会を増やし、事故・不祥事の防止に努める。 ○近隣自治体と連携・協働し、地域社会の一員として、防災活動に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事防止点検シート等を活用し、定期的に事故・不祥事防止会議を行い、様々な場面を想定して、教職員の徹底意識を高める。 近隣自治体・地域と連携活動があった際に、振り返りを行い、活動の記録を残しておく。これにより、今後の防災活動に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議やその他の会議等で、定期的に事故・不祥事防止会議を行うと共に、職員間に当事者認識が高まったかどうか。 近隣自治体・地域との活動において、迅速な連携が取れ、適切な防災活動ができたか。